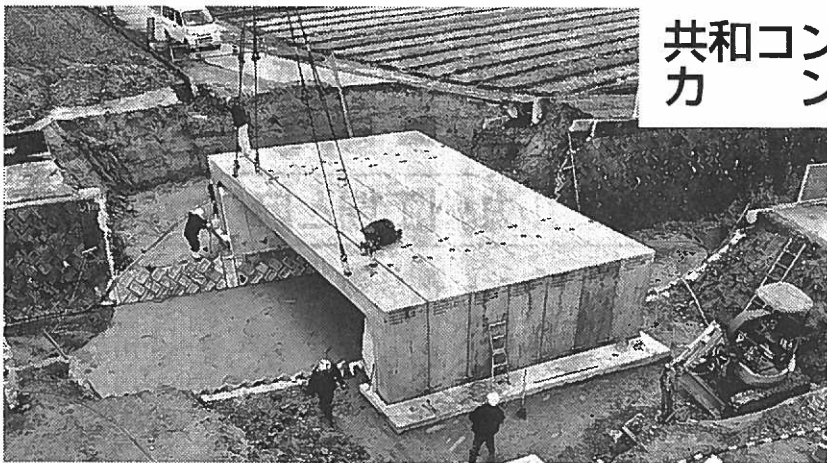


共和コンクリート工業 力 ケ ン



観音寺市役所発注工事で四国初採用

斜角門形カルバート 四国で初採用

既設河川橋梁架け替え

斜角門形カルバート工法研究会(岩佐隆会長)が普及を進めている「斜角門形カルバート」が、香川県観音寺市の橋梁架け替え工事で採用された。四国で初の実績。カンケン(香川県観音寺市、石川利勝社長)が製造し、共和コンクリート工業(北海道札幌市、本間丈士社長)が納入した。両社は、今回の実績を踏まえて四国4県の中小河川や農業用の用・排水路などにかかる橋梁代替として斜角門形カルバートの提案営業を推進していく考えだ。

採用されたのは観音寺市役所発注の橋梁架け替え工事(市道丸井南連絡線道路改築工事)で、設計は新宅工業、施工者は高橋土建。2019年12月27日に施工が行われた。前日に現場で大型クレーンを組立て、27日の午前中に7個の部材すべりの設置が完了し、小河

現場打ち基礎コンクリートの上にかぶせるだけで施工が行えるため、通常の施工現場では20分に1個のペースで敷設できることから工期短縮を実現している。

また、既設水路を撤去せずに施工ができる構造のため、一般橋梁のように水替えや支保工などの仮設工が不要。水を止めずに施工ができることから農繁期を含めて通年で施工が可能となっている。

今回施工した斜角門形カルバートは、内幅(スパン)8500×内空高2000×奥行880mmで道路と河川との交差角は76度。

道路幅員(地覆含む)は6.2mで7個の部材を使用した。製品重量は1個14.83tで総納品重量は104.1t。大型トレーラーでカンケンの製造工場から現場

鴻池組は2019年12月11日、きんそく(京都府、奥野勝司社長)と共に、同基礎杭の施工管理自動化システム「杭打キングPLUS」を開発したと発表した。

この計測管理も可能となっている。既製コンクリート杭のほか鋼管杭、地盤改良杭に適用できる。鴻池組では試験的に導入を行い精度向上などによる人材不足

が難しいことから、徹底した施工精度の確保や工事記録の作成が不可欠となっている。また、現場作業員の高度な技能は18年に開発した「杭打キング」をベースに機能を拡充・改良を図った。

杭打キングPLUSの主な機能は①杭芯計測②杭計測③杭打機

シ検出を用いて杭の水平位置および傾きを計測することで、計測時間を大幅に短縮している。

鹿島は2019年12月17日、道路橋床版の取替工事で4つの作業工程を同時に行うことが可能な「スマート床版更新(SDR)システム」(特許出願中)を開発したと発表した。

SDRシステムは軽量で移動式の床版撤去機と床版架設機を新たに開発したことで、4作業の同時並行を進めることが可能となった。

林氏が社長就任 大和クレス

佐新社長

二次製品 談話室

「外国人技能実習制 日本で働いていただけ度において職種が追加されるようになった」と話されたことにより、外国人の方に「コンクリート製品製造」として

技能持ち帰って

協会 製品製造の「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律施行規則」を一部改正し、職種・作業として「コンクリート製品製造」を追加した。技能実習評価試験は、全国コンクリート製品協会(全コン)が行った。

まで運搬し、400tクレーンで吊り上げて基礎コンクリート上に据付け、現地で橋を構築する。同工法の普及に向けて、2003年に斜角門形カルバート工法研究会

が発足し、工法PRなどを積極的に行っており、全国でこれまでに約400件の実績を積み重ねている。

島 床版更新で新システム

工期約3分の1に短縮

部のフランジに付着したさびを除去するケレン作業、高さ調整のための硬質ゴム設置、新設床版の架設という4作業からなる。SDRシステムは軽量で移動式の床版撤去機と床版架設機を新たに開発したことで、4作業の同時並行を進めることが可能となった。

林氏が社長就任 大和クレス

佐新社長